

東北大学ハレアカラ観測所で とらえた木星の模様の変化

浅田 正(九州国際大学・経済学部)
坂野井 健、鍵谷 将人(東北大学・惑星プラズマ大気研究センター)

要旨

2016年12月から2017年6月までハレアカラ観測所の60cm反射望遠鏡を日本から使って、木星のリモート撮像観測を行った。延べ98夜の撮像で、70枚の良像を得ることができた。用いたフィルターは、RGBに加え、750nm(赤外線連続光)と893nm(メタンバンド)の5種類である。

この観測によって木星の模様の変化をとらえることができた。2016年と2017年の比較から、NTBの復活に加えて、大赤斑が縮小している可能性も見つかった。今後の追跡が必要であろう。

2017年の以下の現象については、月1回程度の画像から数か月にわたる時間変化を追跡することができた。

- (1) STB Ovalとその西方
- (2) 北緯45度付近とNEBの白斑
- (3) SSTB Barge
- (4) NNTB Barge

もっと短時間の時間変化は、残念ながら追跡できなかった。

今後は、木星探査機Junoの画像などを参考にして、より詳しい時間変化を調べたい。また器材の更新や画像処理技術の改良などをしながら、撮像を継続していきたい。